

受賞大学一覧

大学等名	科目名	取組概要
山形大学 最優秀賞	フィールドワーク 山形の企業の魅力	低学年での就業体験より、キャリア意識を高めることがねらい。 <u>地元中小企業の理解及び次年次以降のインターンシップ参加促進を</u> 目指し、 <u>山形県内の中小企業でインターンシップ（事前訪問1日・現場実習3日・振り返り1日）</u> を実施。
恵泉女学園大学 特別賞	フィールドスタディⅡ～Ⅴ	<u>タイのNGOや住民組織のある農村等において、約2か月半の海外インターンシップ</u> を実施。そのために必要な事前・事後学習・モニタリング等の充実にも取り組む。
長岡技術科学大学 優秀賞	実務訓練	<u>実験・インターンシップを重視した「実務訓練」を長期間（4～5か月間）、国内外の企業や研究機関等において実施。</u> 大学院へ進学する学生全員に対して、必修科目として履修。
大阪大学 優秀賞	物質科学国内研修1	企業の研究現場等で組織の一員として技術開発に実際に従事。「皆で育てる」ことを特徴に、学内だけでなく、企業の理解も得ながら、 <u>3ヶ月間の長期にわたるインターンシップ</u> を実施。
亜細亜大学 優秀賞	海外ビジネス インターンシップ（AUCP）	<u>中国現地企業・機関に派遣し、海外での仕事の内容を理解すること、現地社員の労働観を理解すること、仕事に向かう責任感と自立心を養うこと等を目的とした長期海外インターンシップ</u> を実施。
東京工科大学 優秀賞	各種コーオプ演習	学内の授業プログラムと学外での就業体験型学修プログラムを交互に受けるカリキュラム。学生は、学内の授業で事前学修をしたのち、 <u>約2か月間、企業での有給インターンシップ</u> を実施。
湘北短期大学 優秀賞	春季インターンシップ （短期）・（長期）	<u>インターンシップへの参加を希望した学生を全員参加させている。インターンシップ関連業務を専門に担当するオフィスコーディネーターの配置等により、高いインターンシップ参加学生割合を確保。</u>
仙台高等専門学校 優秀賞	インターンシップB	<u>企業活動に貢献する課題解決型のインターンシップ。</u> 「仙台高専産学連携振興会」や宮城県の協力を得ながら、学内の体制整備も含め、 <u>継続的に実施できる仕組みの構築</u> に取り組んでいる。

山形大学 フィールドワーク 山形の企業の魅力

<取組概要>

- ✓ 早期からの就業体験を通して、キャリア意識を高め、働くとは何かを考えることを目的に実施。
- ✓ 地域の中小企業の理解及び次年次以降のインターンシップ参加促進を目指し、山形県内の中小企業でインターンシップ（事前訪問1日・現場実習3日・振り返り1日）を行う。

評価のポイント

低学年

地域連携

モニタリング

- 地域でのインターンシップの推進に向け、学生・企業が参加・受入れしやすくすることを目的とし、積極的な意味での短期間のプログラムとするなど、**インターンシップ実施に係る負担感を軽減し、普及していくための工夫がなされている**。さらに、**県内中小企業における産学協働教育に対する意識改革にもつながっている点は高く評価できる**。加えて、受講者数の一層の増加や、次年次以降のインターンシップの本格実施に向けた展望をより明確にすることが期待される。
- ターゲットを地場中小企業に絞り、**「インターンシップ・プログラム」の基本フォーマットを山形県中小企業家同友会と協働して作成**するなど、効果的な取組となるよう工夫を行っている。
- **受講者の追跡調査を実施**し、キャリア意識や学修意欲、将来の職業選択等のプロセスと決定に関わる要因の把握にも努めているとともに、教職協働による学生向けの「インターンシップマニュアル」の策定や、学習管理システムの活用により、**効果的・効率的なインターンシップの運用**がなされている。

(基本データ ※平成29年度実績)

- ✓ インターンシップ参加者数/ **43人**
- ✓ 受入企業等数/ **25社**
(山形県中小企業家同友会加盟企業)
- ✓ 実施年次/ **1年次【選択必修】**



【効果的・効率的な運用のための工夫】
对学生：**インターンシップマニュアルの策定**
学習管理システムの活用
对企业：**プログラムの基本フォーマットの作成**

【教育的効果を把握する取組】
① **インターンシップ参加前後アンケート調査**
→ 社会人基礎力およびキャリア意識が向上、98%の学生満足度
② **履修学生の追跡調査**
→ 学習意欲の向上64%、進路選択活動の意欲向上82%

恵泉女学園大学 フィールドスタディⅡ～Ⅴ

<取組概要>

- ✓ タイ滞在中の4か月半のうち、NGOや住民組織のある農村等において、約2か月半のインターンシップを実施。(タイに到着してすぐの2か月は、タイ語学習やタイ社会文化、国際協力についての講義を受講。)
- ✓ タイ現地でインターンシップを実施する前には、半年間の事前学習と、帰国後の半年間の事後学習を必ず実施。

評価のポイント

長期

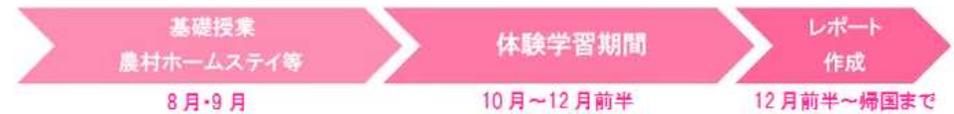
海外

NGO等

- 2000年度から当該インターンシップを実施しており、**充実した事前・事後学習**や**インターンシップ中の現地でのモニタリングの実施**など、教育効果は高いと認められる。
- **海外(タイ)のNGOや農村等といった特徴的な受入先でのインターンシップ**や、4か月半の滞在期間のうちの2か月半をインターンシップと位置づけ、インターンシップ実施期間中以外でも現地の文化等を学ぶことができるプログラムとするなど、**教育的効果を高めるために様々な工夫**がなされている。
- 当該科目を実施するために「体験学習委員会」を設け、**組織的に運営**しているとともに、全学的な取組として**毎月のFD・SD研修**を行っている。

(基本データ ※平成29年度実績)

- ✓ インターンシップ参加者数/ **7人**
- ✓ 受入企業等数/ **6機関**
(Mplus Thailand、Nontao Village(LAPATO coffee)
Hinlaatnai Village、Huay Ikan village、Paayuan village、Panlao Village)
- ✓ 実施年次/ **2～4年次【選択】**



8月・9月 -タイについて知り、体験学習テーマを深める-

チェンマイ大学のゲストハウスに宿泊し、実践的なタイ語やタイの文化、社会事情などの講義を受けながら、タイへの出発前に設定した体験学習テーマについての学びを深めます。授業の合間には、農村や山民の村でのホームステイも体験します。9月になると、課外授業で体験学習候補先であるNGO、政府機関、住民組織などを訪問し、各自のテーマに合わせた体験学習先を決定します。

10月～12月前半 -体験学習期間-

いよいよ長期フィールドスタディの真骨頂でもある体験学習の始まりです！体験学習期間は3期に分かれ、各期終了後にはチェンマイ大学に戻ります。中間報告会で調査の進行状況を発表し、先生方からアドバイスを受けます。

12月前半～帰国まで -レポート作成と振り返り-

体験学習期間に調査してきた各自のテーマについて、最終レポートをまとめます。このレポートを仕上げ、提出したら、最後は皆でプログラム評価会を行います。

長岡技術科学大学 実務訓練

<取組概要>

- ✓ 実験・インターンシップを重視した「実務訓練」を長期間（4～5か月間）、国内外の企業や研究機関等において実施。
- ✓ 大学院へ進学する学生全員に対して、必修科目（8単位）として履修。

評価のポイント

長期

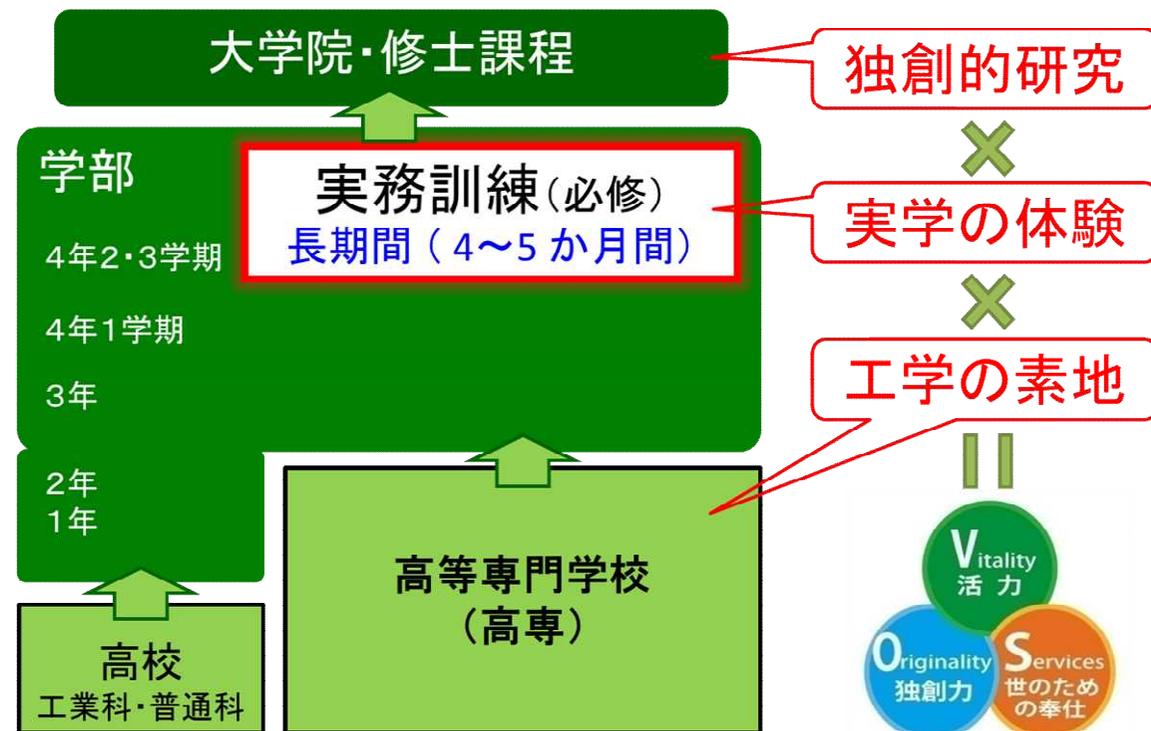
地域連携

モニタリング

- **大学院への進学を視野に入れた必修科目として設計**され、学生の適性や専門性等を考慮した**長期のインターンシップ**であり、大学の特色や目的とうまく連動した取組である。
- 報告書や受入企業等の責任者からの「**評定書**」だけでなく、**修士課程修了後5年以上経過し、社会人として実務に携わっている修了生を対象としたアンケート調査を実施**し、インターンシップの効果の検証に努めている。
- 「実務訓練シンポジウム」や「実務訓練報告会」の開催のみならず、「実務訓練委員会」を設置するなど、**全学的な取組**となっている。また、大学として「実務訓練責任者」を企業等に委嘱するとともに、インターンシップ実施期間中の担当教員による企業への訪問等により、**産学協働の仕組みを構築**している。

(基本データ ※平成29年度実績)

- ✓ インターンシップ参加者数/ **411人**
- ✓ 受入企業等数/ **272機関**
(日本電信電話(株)物性科学研究所等)
- ✓ 実施年次/ **第4年次【必修】**



大阪大学 物質科学国内研修 1

<取組概要>

- ✓ 企業の研究現場で技術開発に実際に従事、あるいは公的研究機関の組織の一員として活動する。
- ✓ 「皆で育てる」ことを特徴に、学内だけでなく、企業の理解も得ながら、3ヶ月間の長期にわたるインターンシップを実施。

評価のポイント

長期

大学院

充実した実施体制

- 主に博士後期課程1年次を対象とした必修科目であり、**企業や研究機関の現場において、専門分野に限定することなく、社員・職員と同等の業務を3か月に渡って実施**するプログラムとなっている。また、**教員間でインターンシップの有効性がよく共有**されている。
- 職場の上司によるチェック、学習内容の確認や今後の展開について考えさせる報告会、社会人基礎力に基づく自己評価シートの作成など、**定量的・定性的なインターンシップの効果測定の仕組みが重層的に設けられている**。
- 8名の専任教員に加え、2名の特任教員をメンターとして配置するなど、**充実した体制が整備**されている。

大阪大学博士課程教育リーディングプログラム「インタラクティブ物質科学・カデットプログラム」

インターンシップ取組について

制度概要 博士後期課程1年次に必修科目として開講、企業・独法研究機関に履修生が3ヶ月滞在、仕事の実態を体験、科学技術が実際に活用されるために必要となる視点の獲得、チームやグループで仕事を進めるために求められるスキルへの気付きを、現場の技術者や上司とのコミュニケーションの中で獲得、これまでに27企業5独法研究機関に実績

ねらい これまでと異なる環境に身を置き、業務を行うことで、自身のキャリアデザイン意識を持ち、将来リーダとして活躍すべき場・役割に求められる「多様な価値観」、「複眼的な見方」、「広い視野」の意味重要性を理解する

ポイント：●産業界等を知る（これまでと違う世界を知る）…アカデミアが知らない履修生が実業の現場を知る
特に「競争認識」「コスト時間認識」「安全意識」

- 実業現場におけるコミュニケーションの重要性を知る
- 知識を行動につなげる 実務行動力を身につける

特徴は教員が協力し「皆で育てる」!

- ①履修先の決定 基本は履修生が選択・交渉まで行う必要に応じて修先選択・事前意識整合指導を大学担当（飯島特任教授ほか）が実施
- ②目標管理帳票で進捗成果報告 現場指導者指導等週次管理 これを大学側がモニターし 履修生の実態を細かく把握しながら実施する
- ③産業界外部アドバイザーを招き報告会実施 産業界や公的研究機関幹部を含めた最終報告会質疑応答の機会をつくる
- ④取組の仕組は大阪大学産学共創本部を通して全学展開

企業からアドバイザーが参加して立体的指導

東芝、味の素、富士通研、三菱電機、サントリーの各社からアドバイザー委員が参加、報告会中心に具体的指導
アドバイザー委員からのコメント
・素晴らしい活動で継続を希望する
・短期間ではあったが多くの気付きを得ている
・経験が人を作る実践の場となっている

具体的研修先例	
民間企業	住友化学、日本触媒、カネカ、デュポン、DNP、新日鐵住金化学、積水、東レ、凸版印刷、パナソニック、日立製作所、オムロン、東芝、富士通研、TDK、村田製作所、京セラ、住友電工、千代田ラフト、紀本電子、マツダ、知識技能、株式会社O: NTT、他
研究機関	産業技術総合研究所、物質材料研究機構、理化学研究所、分子科学研究所、情報通信研究機構未来ICT研究所

円滑な就職活動につながるインターンシップ

28年度、29年度で合計25名が修了
20名がメーカー企業、5名がアカデミア（就職率100%）
30年度は企業希望の全員12名が6月時点で全員内定済み
インターンシップの経験が成長につながり、企業ばかりでアカデミアの場でも高い評価を得ている（インターン先への就職例もあり）

（基本データ ※平成29年度実績）

- ✓ インターンシップ参加者数/ **15人**
- ✓ 受入企業等数/ **13社**
（新日鐵住金化学、デュポン、オムロン、積水化学、住友化学、日本触媒、カネカ、日本電信電話、株式会社O、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、理化学研究所、分子科学研究所 等）
- ✓ 実施年次/ **博士後期課程1年次【必修】**

亜細亜大学 海外ビジネスインターンシップ (AUCP)

<取組概要>

- ✓ 「行動力あるアジアグローバル人材の育成」を目指し、現場での体験主義を元に、現地企業・機関の仕事の内容を理解すること、中国人社員の労働観を理解すること、業種や職種について具体的な理解を深めること、仕事に向かう責任感と自立心を養うこと、コミュニケーション能力を鍛えることを目的とした海外インターンシップ。

評価のポイント

長期

海外

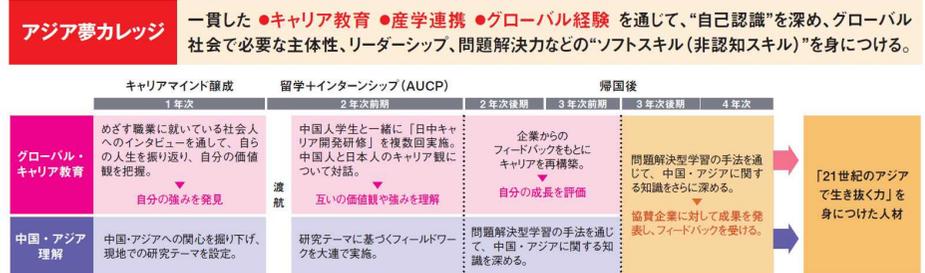
- 「行動力あるアジアグローバル人材の育成」を目指した、**1か月以上の海外インターンシップ**であるとともに、**事前・事後学習や大学が実施するPDCA等に企業等が積極的に参加**している。加えて、受入企業に対して、**大学独自のハンドブックを配布し、インターンシップの質の確保**に努めている。
- 「My Before - After」シートや成果報告会を通じて学生の成長を確認するだけでなく、**その結果が、3年次以降のキャリア開発にも活用**されている。
- 学長直下に「**アジア夢カレッジ運営委員会**」を設置し、**教職協働と学内の明確な役割分担**の下、プログラムの運営に取り組んでいる。

(基本データ ※平成29年度実績)

- ✓ インターンシップ参加者数/ **6人**
- ✓ 受入企業等数/ **約30機関**
(大連漫歩广告有限公司、デロイトトーマツ大連事務所、在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所、スイッシュホテル、みずほ銀行(大連)有限公司、JETRO大連事務所 等)
- ✓ 実施年次/ **2年次【必修】**

アジア夢カレッジのキャリアラム概念図

「アジア夢カレッジ」キャリアラムの流れ



アジア夢カレッジで学ぶ授業

1年次	2年次	3年次	4年次
中国語	基礎ゼミⅡ	応用ゼミⅠ・Ⅱ	成果指導ゼミⅠ・Ⅱ
中国語の基本文法と正確な発音、基本文型の意味解釈に主体を置く初級の授業と、ネイティブ教員による中国語のみを使用する中級の授業があります。	大連での修学、生活、インターンシップの「大連経験」を取りまとめ、帰国報告を行うとともに「自分のキャリア形成」の方向を明らかにします。	それぞれのキャリア形成方向とアジア関心にそって「アジア・キャリア形成テーマ」を設定し調査研究を開始します。学年末に研究テーマの中間報告を行います。	3年次の「応用ゼミ」に続く授業です。日本と中国(アジア)に関わる企業・産業・社会の今後の可能性と課題に関するゼミテーマに基づき、日本企業・産業・社会が重要な点について調査・分析を進め、事業立案・提案を行います。その過程で協賛企業などの指導を受けられるのが、この授業の特徴です。最終的に「成果報告会」を企画・準備し、発表します。
アジアキャリア開発入門 このプログラムの基本的な趣旨を理解し、学習に必要な姿勢・能力を身につけます。また実際に企業へ足を運んで取材し、自身のキャリアについて考えます。	現代アジアとキャリアデザイン 実際にアジアの企業・機関で活躍しているトップランナーを講師に招き、アジア地域で働く上での心がまえや、必要となる能力や資格について学びます。	中国語コミュニケーションⅢ・Ⅳ コミュニケーション・ツールとしての中国語を修得する実践科目。会話能力の向上、中国語で討論する技術を学び、中級程度中国語力の獲得をめざします。	

東京工科大学 コーオプ企業論、コーオプ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ コーオプ実習A・B・C

<取組概要>

- ✓ 学内の授業プログラムと学外の就業体験型学修プログラムを交互に受けるカリキュラム。学生は、学内の授業で事前学修をしたのち、約2か月間、企業でのインターンシップを実施。
- ✓ 企業から給与が支払われることで、企業の一員としての役割、就業力や社会人基礎力を身につける。

評価のポイント

長期

コーオプ

- 約2か月間のインターンシップの期間を確保するため、**クォーター制を導入**するなど、**インターンシップの重要性を強く認識した制度設計**がなされている。さらに、**必修かつ有給**であることや多くの受講者の確保など、**本格的なコーオプ教育**に取り組んでいる。
- 事前・事後学習や、定量的・定性的な評価、モニタリングの実施も含め、**学生への手厚いケア**が行われている。
- 「コーオプセンター」を設置だけでなく、プログラムの企画や評価、分析や改善のために、外部有識者や実習先企業をメンバーとする「**コーオプ教育評価検討会**」を設置するなどし、**組織的**に取り組まれている。

東京工科大学 コーオプ教育プログラムにおけるフロー・スケジュール

学科	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
機械工学科				コーオプ演習Ⅱ 自己能力分析 就業目標設定 企業研究	コーオプ実習A 就業体験 集中講義	コーオプ演習Ⅲ 就業体験振り返り 成果発表会			卒業課題
電気電子工学科 応用化学科		コーオプ企業論 経済社会と企業	コーオプ演習Ⅰ 主体的学修 協働学修教育	コーオプ演習Ⅱ 自己能力分析 就業目標設定 企業研究	コーオプ実習A 就業体験 集中講義	コーオプ演習Ⅲ 就業体験振り返り 成果発表会			

(基本データ ※平成29年度実績)

- ✓ インターンシップ参加者数/ **302人**
- ✓ 受入企業等数/ **140社**
(株式会社三幸社、日本サーモニクス株式会社、
日本電子工業株式会社、株式会社TBK 等)
- ✓ 実施年次/ **2年次または3年次【必修】**

		コーオプ実習スケジュール											
月	学科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	機械工学科		学生面談 企業への受入確認	成果発表会 マッチング		情報交換会 引継ぎ会	直前ガイダンス	就業体験(8週間) グループ1 50名	引継ぎ会	就業体験(8週間) グループ2 50名		情報交換会 引継ぎ会	就業体験(4週間) コーオプ実習C
	電気電子工学科 応用化学科		就業体験(8週間) グループ1 90名	引継ぎ会	就業体験(8週間) グループ2 90名		就業体験(4週間) コーオプ実習B		企業への受入確認 学生面談	成果発表会 マッチング		情報交換会 引継ぎ会	直前ガイダンス

湘北短期大学 春季インターンシップ（短期）・（長期）

<取組概要>

- ✓ 学内で学生の選考は一切行わず、希望した学生は全員参加させている。2017年の参加学生数は338人で、在籍学生におけるインターンシップ参加学生の割合は97.4%と高水準になっている。
- ✓ インターンシップ関連業務を担当するオフィスコーディネーターを配置し、学生指導と実習先企業や団体との交渉等を行っており、教員が研究と並行して学生教育により時間を注ぐことを可能にしている。

評価のポイント

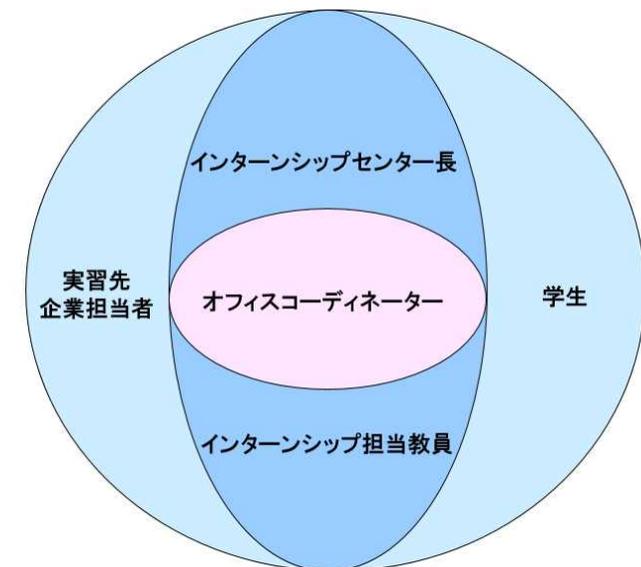
低学年

希望者全員参加

充実した実施体制

- 新入生のほとんどがインターンシップに参加しており、**多数かつ多様な学生をインターンシップに送り出すことを可能とするような体制を構築**しているとともに、企業における若手社員育成も意識して、さらに他社への事例共有を行うことで、**企業からの協力を引き出す工夫**を行っている。
- 事前学習授業「インターンシップリテラシー」の一環として、学生によるプレゼンテーション・面接・フィードバックを実施し、インターンシップの教育的効果を高める工夫を行っている。さらに、**先輩経験者を活用することで、双方の学生にとって効果的なモニタリング**を実施している。
- 評価のポイント③全学組織として「インターンシップセンター」を設置するとともに、**専任職員であるコーディネーターを配置**するなど、**充実した実施体制**を構築している。さらに、全学の教職員を対象に、**組織的な取組に関するFD・SD研修を通年で実施**している。また、インターンシップの担当以外の教員も実習先を訪問することで、**教員自身が、大学教育に対する社会からのニーズを理解する機会**にもなっている。

「湘北インターンシップ」を支えるオフィスコーディネーターの機能イメージ



(基本データ ※平成29年度実績)

- ✓ インターンシップ参加者数/ **338人**
- ✓ 受入企業等数/ **132社**
(ソニー、JTBコーポレートセールス、野村證券、三越伊勢丹、厚木商工会議所 他)
- ✓ 実施年次/ **1年次【選択】**

球体の中心部分にオフィスコーディネーターが存在し、実習先企業の担当者や学生が回転しながら(状況に応じて動きながら)、インターンシップセンター長や担当教員等と協働するイメージ図である。オフィスコーディネーターが軸となっているため、周囲の動きは安定し、問題が発生してもオフィスコーディネーターを介して迅速な対応が可能となる。

仙台高等専門学校 インターンシップB

<取組概要>

- ✓ 企業活動に貢献するとともに、学んだ知識を使うことのできる技術に昇華させることを目的とした「知識を知恵に変える」ための課題解決型のインターンシップ。
- ✓ 「仙台高専産学連携振興会」や宮城県の協力を得ながら、学内の体制整備も含め、継続的に実施できる仕組みを構築。

評価のポイント

長期

PBL

地域連携

- 企業活動に貢献するとともに、学んだ知識を使うことのできる技術に昇華させるという明確なコンセプトの下、**PBL型の長期のインターンシップ**に取り組んでいる。
- 外部アセスメントを有効活用するとともに、「週報」の運用や、中間・最終の報告会の実施、東北地区でのシンポジウムにおける全活動内容の発表など、**学修効果のアウトプットが徹底**されている。
- **インターンシップ実施のための全学的な体制が構築**されているとともに、**産学連携振興会会員企業出身のコーディネータの配置**や**宮城県からの支援**等により、産学官が協働した取組となっている。

(基本データ ※平成29年度実績)

- ✓ インターンシップ参加者数/ **49人**
- ✓ インターンシップ受入先
仙台高専産学連携振興会(仙台高専の企業協力会)
加入企業等数/ 約150社
- ✓ 実施年次/ **専攻科1年次【選択】**



仙台高専の課題解決型インターンシップ

目的

- ・“知識を知恵に変換する能力”を身に着けるためのインターンシップ
- ・地域企業の技術開発に貢献しながら、自らも社会で必要な技術を育成する。

前提

専攻科生は、本科5年次に卒業研究を履修。15歳からの実践的教育の成果を実社会で発揮する。企業の実際の業務を行い、その中で自らの能力を発揮し、課題の解決に当たる。

インターンシップについて

科目名 : インターンシップB
実習期間: 1学年の第3クオータ(1か月~3か月)
単位数 : 5単位~12単位
(注: この間、海外大学等での研修も同時進行。国内、海外両方でのインターンシップを行う学生もいる。)

仙台高専のインターンシップの最終到達目標

学生自らが、就労した企業内の課題を、学生自らが発見し、解決方法を提案し、その課題を期間内に課題を解決するインターンシップ

インターンシップの流れ

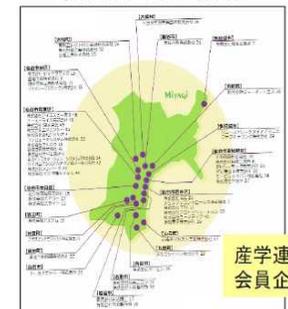
- 4月 入学時の学生へのガイダンス
- 5月 企業からのインターンシップの説明
- 7月 マッチング(自主的に企業を選択)
- 8月 インターンシップ開始

- ・中間報告会
- ・最終報告会

- ・作業日誌への記録
- ・週報の提出
(コーディネータ、教員、事務職員が確認)
- ・企業からの成績評価書

- 11月 専攻科産学連携シンポジウムで報告
- 12月 学内報告会、成績評価

実習先企業の概略



産学連携振興会
会員企業